

研究の概要

時津町立時津北小学校

学校教育目標

家庭、地域とともに目指す児童の姿「思いやり しっかり考え きたえる子」
の具現化を通して、「社会を生き抜く力」を身に付けた児童を育成する。

研究主題

「自ら学び、考えを広げ深め、豊かに表現する子供の育成」

～ 言葉による見方・考え方を働かせる国語科授業改善を通して～

【 国語科で目指す子供像 】

- 「言葉」を根拠として自分の考えを明確にできる子供
- 自分の考えを言葉豊かに表現したり、友達の考えを理解し受け止めたりすることができる子供

「言葉による見方・考え方」を
働かせる国語科授業改善

- (1) 「指導者モデル」^{※①}「学習計画」による単元の見通し
- (2) 言葉による見方・考え方を働かせるための「問い」などの「手立て」
- (3) 考えを広げ深める「目的を明確にした」対話活動・「意図的な」グループ編成

読解力の視点
からの授業改善

- (4) 読解力の視点を意識した授業づくり

長崎県授業改善メソッド

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

土台となり、支えている諸活動

【学習環境の整備】

- 語彙力を育む掲示
- 学習規律の徹底
(北小スタンダード)

【読書活動の充実】

- 読書に関わる行事設定
- 家読の推進
(家庭読書カード)

【ICT機器の活用】

- 学力調査の分析
- Chromebookの活用
(国語科アンケート)

【効果的なスキルタイム】

- 「読む力」の向上
- 読解(RS)の視点を踏まえた課題設定

【読解(RS)^{※②}の視点】

- 授業構成の工夫
- スキルタイムと連携

※①…設定した言語活動について、実際に教師が作成したモデル

※②…リーディングスキル

研究仮説

【 研究仮説① 】

国語科の学習において、言語活動の充実を図り、言葉による見方・考え方を働かせる発問や対話活動を設定することで、根拠をもって自分の考えを形成し、より豊かに表現する資質・能力を育成することができるであろう。

【 研究仮説② 】

学習場面において、「長崎県授業改善メソッド」を踏まえ、児童が読解力の視点をもつための働きかけを行う。そうすることで児童は、常に読解力の視点を意識しながら文章読解に取り組み、読解力を向上させることができるであろう。

「自ら学ぶ」をつくる『ゴールの明確化』

単元のゴールとなる言語活動を設定し、そこに向けてどのような学習をすべきか子供が見通す。「学習計画」や「指導者モデル」を提示することで、本単元・本時でどのような力を身に付けるべきかを教師・子供が把握し、課題・目的意識をもって単元を通した学習へと臨むことができる。

『問い』などの『手立て』で言葉を根拠に

「対象と言葉（表現）」「言葉と言葉（きまり）」「言葉の働き（目的）」について、様々な方法（比較・順序・選択・関連付け 等）を用いて考えさせる。教師の「問い」などの「手立て」によって、子供は再度「言葉」に立ち返って考えを整理したり、形成したりすることができる。

広げ深める対話は『目的の明確化』と

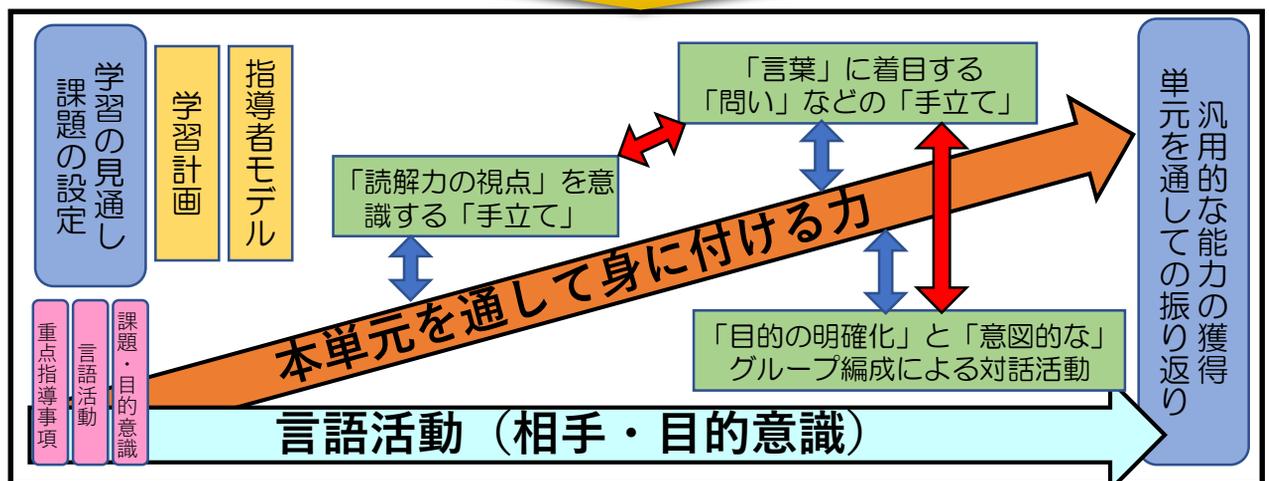
『意図的なグループ』

子供自身が対話の「必要感」をもつ場面（問いなどの手立てによる課題の形成）で対話活動を設定する。また、意見や学力の相違等、学習のねらいに応じてグループ編成を行う。理解の高まり、考えの広がりや深まり、支持的風土の形成、「話し合う」力の向上を図ることができる。

学びの『土台』は読解力

教師・子供が共に読解力の視点を意識して学習に臨むようになるための「手立て」を講じる。『RS視点シート』を活用し、「内容を理解する」「根拠を見付ける」「まとめを書く」といった学習活動において、読解力の視点を意識した授業づくりを行う。

単元構成のイメージ



研究の実際

1 「自ら学ぶ」をつくる『ゴールの明確化』

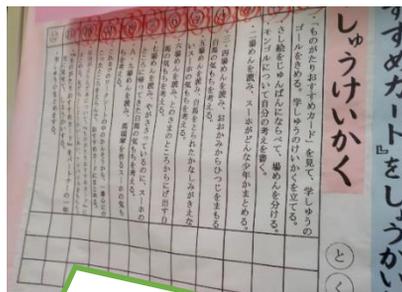
重点指導事項を基に、本單元における言語活動を設定し、「指導者モデル」と「学習計画」を作成する。言語活動の充実に向け、指導者モデルの作成にあたっては、「課題・目的意識を明確にすること」、「評価規準を踏まえること」、「子供の手本となること（実態考慮）」の3点を条件とした。

(指導者モデルの例)



重点指導事項や実態に応じて、作成する

(学習計画の例)



単元はじめに子供の課題意識を基に作成する

2 『問い』などの『手立て』で言葉を根拠に

言葉を考えの根拠として捉えたり、その『言葉』の働きや意味について考えを深めたりするために、子供が言葉に着目できるよう、『問い』や資料の提示などの『手立て』を講じる。考えを深めていくにあたっては、様々な思考方法を用いることで、子供の思考が流れやすいようにする。

【様々な思考方法】 比較、順序、選択、関連付け、分類、要約、整理、推敲、評価、帰納的に考える 等



文末表現が「～と書かれている。」から、引用していることがわかります。

第5学年「みんなが過ごしやすい町へ」
第6時／10時
自分の考えが伝わる報告文の書き方を理解する。

良いモデルと良くないモデルを比較し、「良いと考える理由」を問う。違いに着目して考え、良い書き方を導き出せるようにする。

「言葉による見方・考え方」を働かせるために～思考の方法～

	手立て【思考の方法】	具体例
物語文	「同じ言葉」に着目させる【順序・関連付け・整理】	繰り返される「同じ言葉」に着目することで、その場の情景や、登場人物の心情を深く考える。
	「言葉」の有無に着目させる【比較・選択・関連付け】	その「言葉」の有無で、どのような違いが生まれるかを問い、その「言葉」のもつ働きを深く考える。
説明文	つながりを表す「言葉」に着目させる【順序・関連付け・整理】	つながりを表す「言葉」に着目することで、文章の大体を捉えたり、つながりを理解したりすることができる。
	「言葉」が同じ・違う事に着目させる。【比較・関連付け・分類】	「言葉」の違いに着目することで、読み手に対してどのような印象であるか、文章の構成はどうなるのかを深く考える。

3 広げ深める対話は『目的の明確化』と『意図的なグループ』

子供自身が「必要感」をもつ場面（問いなどの手立てによる課題意識の形成）で対話活動を設定し、対話の目的を明確にする。また、重点指導事項や、単元及び本時の目標に応じて、対話活動のグループ編成を意図的に行う。そうすることにより、対話活動における子供の考えを確かにし、広がりや深まりが生まれるようにする。

【対話活動の目的】 不足を補う 確かめる まとめる 広げる 深める 等

対話活動の形態 【形態の意義】	ねらい・効果
学力に応じて分ける 【複数の考えを理解する】	教え合いによる理解の高まりや、考えの深まりが生まれる。
考えの立場に応じて分ける 【明確な答えを導く】	同じもしくは異なる視点が話し合いに盛り込まれ、考えの深まりが生まれる。
話し合いを意識して分ける 【話し合いの仕方を学ぶ】	支持的風土を作り上げたり、話すことへの抵抗感がなくなったりして、考えを伝え合いやすくなる。

4 学びの『土台』は読解力

「読む」学習を支える読解力の向上を図るために、あらゆる単元・学習の中で「手立て」を講じていく。『RS視点シート』を活用し、教師・子供が共に読解力を意識する授業づくりを行う。

【手立て】学習の中で意図的に主語と述語の係り受け、難読語句の意味を確かめたり、文章と図表を繋げて読み取ったりした。

【長崎県授業改善メソッド】

メソッドの視点に照らし合わせて授業づくりが行われているかを、改めて確認！！

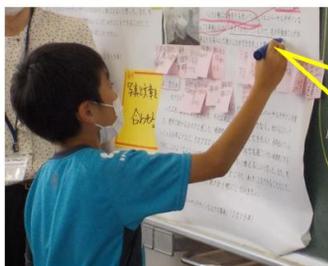
読解力育成のために

RSを高めるための授業改善のポイント

- 一文が長く、文の構造を捉えにくい文章を明らかにしておく。
- 教科書の文章を音読する際に、つまりく語句はないか確認しておく。
- 省略している主語や目的語を明らかにしておく。
- 掲載されている図やグラフ等が教科書のどの文章と対応しているか明らかにしておく。
- 定義や学習用語は、同義で言い換えるなどとなるか、具体例は何か考えておく。

【RSを高めるための授業改善ポイント】

資料と文章をつなげ、対応していることを視覚的に捉えやすくする。
(イメージ同定)



この写真は、文章の「トイレの中は広く～」のことを言っていると思います。

読解力育成のために

- 自分の考えの理由や根拠を相手に正しく伝えるために、ノートや資料等を示しながら説明させる。
 - 「それ」「これ」などの指示語が示す言葉や内容は、具体的に説明させる。
 - 考えの共通点や相違点を目出しながら聞く習慣を身に付けさせる。
- など

専門部の取組

(スキルタイム部)

【スキルタイム】 基本の徹底 スキルタイム

スキルタイムでは、子供たちの「言葉による見方・考え方」を働かせるための言語感覚を養ったり、基礎的読解力を高めたりすることを目的として以下のような活動に取り組んだ。

- 詩の音読・・・スキルタイムの始めに、今月の詩を音読する。
- 読解力（RS）に関する問題・・・係り受け解析や照応解決に関する問題を解く。
- 視写・・・言葉のまとまりや意味に着目しながら視写する。
- 条件作文・・・新聞記事を読み、その話題への考えと理由をまとめ、交流する。
- CRTの分析に基づいた問題・・・学年ごとの課題に応じた問題を解く。

スキルタイムの流れを全校で統一して示したり、「ふりかえりカード」に解けた問題数を記録したりすることで、子どもたちが見通しを持ち、主体的に取り組めるようにした。

スキルタイムの流れ①

- ① プリントを配ります。
- ② えんぴつの持ち方をとなりの人と確認します。
- ③ 問題文をよく読み、解きます。(5分間)
- ④ 答えの確認をします。
- ⑤ どれだけ解くことができたかをふり返ります。
- ⑥ ファイルにとじます。



スキルタイムの取り組み方

条件作文ワークシート

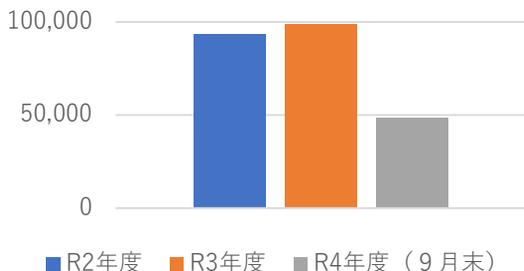
実際の様子

(学習環境・読書推進部)

【読書の推進】 考えを広げる 読書活動

- マイセレクトカード：ビンゴに示され条件に沿って、様々な本を選べるようにしたカード
様々な種類の本にふれ、読書の幅を広げることを目的に「マイセレクトカード」に取り組んだ。自身の読書の足跡になるだけでなく、ビンゴの枠が様々な種類の本を指定しており、マスを埋めていく楽しさを味わいながら取り組むことができる。様々な種類の本があることを知り、それらの中から自ら選び読むことで、読書量の増加につながった。
- 家読カード：家庭で読んだ本について、まとめるカード
家庭での読書推進を図る取組である。学期に1～2回程度実施している。読んだ本の名前・作者だけでなく、感想をまとめる項目を取り入れることで、友達同士で紹介し合い本への関心をさらに高めたり、本の内容をより深く理解したりすることができるようにした。
(常時、各階に家読カードを設置し、本への親しみを高める)

読書量の変化（年度ごとの貸出冊数）



年度	貸出冊数	増減
R2年度	93,474	
R3年度	98,956	+ 5,482
R4年度 (9月末)	48,552	

(学習環境・読書推進部)

【校内掲示活動】 子どもが作る 言葉を味わう

- 国語科[知識及び技能]の内容を踏まえ、言葉の使い方や語彙、文の構成など、言葉に興味をもったり、季節を感じて味わったりできるようにした。
- 掲示する際は、立ち止まって読みたくなるよう、めくれるようにしたりタイトルを明示したり、クイズにしたりする工夫をした。
- 子供の考えを取り入れた参加型の掲示を目指した。子供は友達の前で作品を読んで感想を伝えたり、友達や教師と対話したりしながら見るなど、言葉への興味関心を高める姿が見られた。



言葉の動き・使い方



語彙を豊かにする



考え・感想を伝え合う

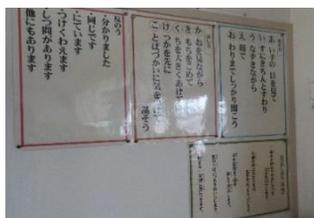
【教室掲示】 自分の考えを表現する環境づくり

- 全教室で統一した活動の流れ

学習の際は「めあて」や「まとめ」を(め)・(ま)と黒板にカードで示し、学習の流れを統一化し、視覚化することで、子供が見通しをもって主体的に学べるようにした。また、振り返りの視点「と・く・い(友達の考えから学んだこと・くらべて変わったこと・今まで学んだことで使えたこと)」や、反応の仕方・対話活動の視点を明示し、児童の「表現」につながる環境を整えた。



めあてやまとめのカード



反応の仕方・対話活動の視点



成果と課題

研究仮説①

国語科の学習において、言語活動の充実を図り、言葉による見方・考え方を働かせる発問や対話活動を設定することで、根拠をもって自分の考えを形成し、より豊かに表現する資質・能力を育成することができるであろう。

研究仮説②

学習場面において、「長崎県授業改善メソッド」を踏まえ、児童が読解力の視点をもつための働きかけを行う。そうすることで児童は、常に読解力の視点を意識しながら文章読解に取り組み、読解力を向上させることができるであろう。

【成果】

- ◎ 単元を通して、言語活動の充実を図ることで、**主体的に学ぶ**と共に、重点指導事項とする**資質・能力の育成**が図られた。
- ◎ 「言葉」を明確な根拠としてもち、**自分の考えをまとめ、表現すること**につながった。
- ◎ 学習に対して「見通し」をもち、課題の解決に取り組むと共に、対話を通して**理解や考えを深めること**につながった。

【成果】

- ◎ 「長崎県授業改善メソッド」を踏まえることで、同じ視点で授業の構想・振り返りを行い、授業づくりの**基礎的事項の共有**を図ることができた。
- ◎ 読解力に対する児童の意識が向上し、**主語や述語、係り受け**をしている言葉等に留意して読むことにつながった。
- ◎ 読解力に対する意識が向上したことで、**理解の向上**にもつながった。

【今後に向けて(課題)】 より主体的な学び 個別最適な学び 教科を超えた汎用的な力の育成

「話し合うこと」の表現力の向上 言葉によるコミュニケーション能力の育成